

教育学部後援会誌

第5号



ごあいさつ

早春の候、教育学部後援会会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、当後援会の推進にご協力とご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、日本経済は米国の金融不安に端を発した未曾有の世界的な経済危機により自動車、IT産業を始め全業種にリストラや、就職内定者採用取り消しと企業の経営環境や雇用環境などが非常に厳しい状況にあり島根県も例外ではありません。

また、国や都道府県等も緊縮予算・財政難等により公務員の採用を控えているのが現状です。しかし一方では、石見銀山世界遺産センターの開館、アクアスの白イルカのパブルリング、NHK連続テレビドラマ『だんだん』の放映やテニスの錦織圭選手の活躍等、島根県の良さを世界及び全国に知って頂き反響を呼びました。

また、昨年末には2008年のノーベル賞に日本人が4人も選ばれるという、日本中の国民に夢や希望を与える出来事もありました。私は先日、ノーベル賞を受賞された方々の内の1人、益川敏英博士の講演会の様子を映像で見る機会がありました。それは京都大学で『益川先生ノーベル賞を語る、学生対話集会にて』という演題で10月8日に開催されたものでした。その中で特に心に残ったのは、益川先生が「私が、学生同士の議論を重視するのは、同じ発達段階にある学生同士の議論によって自分が鍛えられるからです。」と言われたことです。

会長 曽田 悟

今日の学生や若い人達は、概して積極的に自ら行動し発言することを苦手とする人が多いように感じます。しかし、私は将来社会人として確立するためには自己主張をして自分の意見や考えを相手に伝える力も必要だと感じております。そのような時、益川先生のこの話を聞き、大変重要な事だと改めて思いました。

さて、皆様方ご存知の通り、島根大学教育学部は山陰で唯一の教員養成機関であり、全国で初の試みでもある1000時間体験といった活動も取り入れ、優れた教師を育成し全国に輩出する学部を目指しています。

しかし、学生が多くのことを経験し学び、充実した学生生活を送れるようになるためには、やはり金銭的な支援が必要となります。現在、本後援会の支援事業は、会員の皆様の会費等を財源として、①学生の課外活動支援、②教育実習支援、③国際交流支援、④広報事業、⑤教育環境整備支援、⑥就職支援と、幅広く教育学部の教職員の皆様の協力を得ながら、運営させていただいております。

本後援会は、これからも学生たちが安心し充実した学生生活を送り将来の夢や希望を叶えるために、教職員の皆様方及び後援会会員の皆様方と一緒に本会の活動に取り組んで参りたいと思っております。最後になりましたが、皆様方に本会の趣旨をご理解頂き、今後ともご協力頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



たえず前進する教育学部をめざして

—島根大学教育学部がめざす教師教育改革の成果—

教育学部長 高岡 信也

教育学部後援会会員の皆様には、ご健勝、ご清栄のことと拝察申し上げます。日頃から学生諸君の学びの支援に多くのご協力をいただき、誠に有り難うございます。5号を数えるこの後援会誌上で、今年もまた、大きな朗報をお伝えすることができることを、私共教職員一同大変嬉しく存じます。

平成20年度、本学部は、国が進める「質の高い大学教育支援プログラム」(教育GPと呼ばれ今年から新設された支援事業で、全国の国公立大学から提出された約1,000件の申請のうち厳しい審査を経て120件余が合格しました)に採択されました。

テーマは、『環境寺子屋による理科好き教師の育成』です。その目的は、第一義的には地球温暖化や環境破壊という社会的課題を中心に据えて、問題の本質や原因に思いを巡らすことができ、自然科学的な知識や学習の方法に習熟した学生を育てることです。その成果として私たちは、学生諸君が自ら修得した力を携えて教職への道を歩み、子どもたちに自然を学ぶことの楽しさ、環境保護の意味を伝え、よく言われる「子どもの理科離れ」を防ぐ教育実践に取り組むができる教師になるということを期待しているのです。

島根大学教育学部は、今回の教育GPの採択によって、三つの

GP（教員養成GP、特色GPで、平成20年度と21年度は今回採択された教育GPと特色GPがダブル受賞です）を獲得しました。（全国の国立大学教育学部では初の快挙です）

今回のプログラムでは、学生自身が学ぶ理科的な観察、実験を使って、「子ども科学・実験教室」が開かれ、この活動に参加する学生諸君は「1,000時間体験学修」による時間の蓄積を進めます。（教育学部で学ぶ学生諸君は全員、通常の講義、演習の履修によって修得する卒業に必要な単位修得のほかに、1,000時間の教育的な体験活動を義務づけられています。）

教師とは、卒業後すぐに教壇に立ち、眼前の子どもたちの教育に携わることが求められる極めて高度な専門的職業です。私たちは、この責務を全うするためには「学生時代から多くの子どもたちと出会い、社会的経験を積み、教育的活動に参加しておくこと」が重要だと考えています。

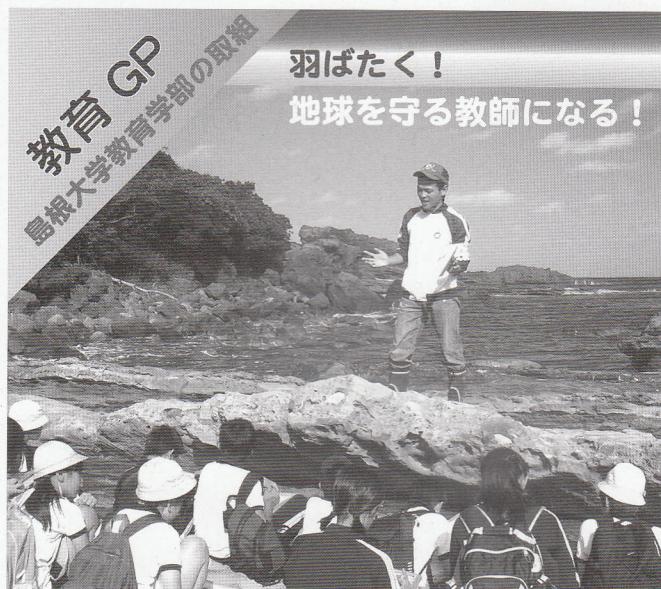
こうした活動を進めていく上で、後援会の存在と支援は、私共にとってまたとない、そして力強い応援団です。私たち教職員一同は、皆様のお子様方一人ひとりが、「教師になる」という夢を抱き、必ず実現されることを念願して、教員養成教育のトップランナーであり続けたいと念願しています。

教育GP（「環境寺子屋」による理科好き教師の育成）の獲得と島根大学教育学部の新たな挑戦！

教育学部初等教育開発講座／環境・理科教育推進室副室長 松本一郎

平成20年度、教育学部にとって喜ばしい出来事がありました。今回、報告する「教育GP」の獲得です。教育GPとは「質の高い大学教育推進プログラム」の事であり、文部科学省が大学教育の充実と活性化（Good Practice）を進めるための事業展開の一つで、多くの予算がこの提案の具体化・実行のために使えるようになります。この教育GPは平成20年度からスタートしたものであり、これまでの「特色GP」（特色ある大学教育支援プログラム）と「現代GP」（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）を統合したもので、島根大学教育学部では、初年度からの採択を勝ち取った形です。しかも、昨年度までのところで獲得した「教員養成GP」および「特色GP」を合わせると、大変な快挙であり、島根大学教育学部の教育活動が広く社会に認められ、注目を集めている結果だと受け止めることができます。

さて、この教育GPの私たちが提案した中身です。昨今、社会的な問題にまでなっている子ども達の「理科離れ」に歯止めをかけるために、積極的に理科好きな教師を育成し、学校現場に送り出すということを目的としました。タイトルを～「環境寺子屋」による理科好き教師の育成～と銘打ち、何でもデジタルに物事が進む現代社会にあり、「寺子屋」という名前のように、教師と学生が膝をまじえて教育・研究体験を積み上げる中で「科学的な力」の獲得を目指した取組です。この取り組みの概要を図1に示しました。図1のように、この取り組みは、これまで教育学部で行ってきた1000時間体験活動と、全学で取得している環境認証のISO14001の活動を基盤にしています。2つの素敵な取組のもとに、3つの教育の柱をたてました。つまり、「理科力養成」「環境教育」「実験・自然観察」です。そこ



で展開する教育活動が「環境寺子屋」による活動です。勿論、この活動は教育学部の1000時間体験活動にカウントされますし、大学が推奨している「環境教育」の基本概念に合致するものであり、これまでの学部や全学の特徴的で有効な教育内容や方法をさらに強化するとともに、「科学好きな教員」を養成するという明確なビジョンを有しています。

ここで特徴的なのは、寺子屋で、実際に学生の教育にあたるのは、私たち専任の理科や家政科の専任教員に加えて、PD（ポストドクター）やTA（ティーチングアシスタント）と私たちが呼んでいる科学的な能力・力量のある専属の教員を配置した点です。つまり、常時、学生に対応できる窓口が開いているということが、学生にとっては大きなメリットであり、同時に、科学に関わる様々な相談や議論がこの寺子屋で展開されることを期待しています。

また、この活動は「体験」という部分に重きをおいていますが、小学校や中学校の教科内容を常に意識して、それぞれの活動がどの部分に位置しており、学生が獲得できる科学的な「力」を評価していくという特色を有しています。体験や経験の弱さが現在の学生にとって弱点であり、そこを補強するという教育学部の当初の目標は、1000時間体験活動により見事にカバーできつつあります。そこで、次のステップではさらに「評価」をどう行うかという点と、それを「学力」にどう結びつけるかという点でした。環境寺子屋では、これを積極的に進めるべく、寺子屋版のプロファイルシートを提案しました。

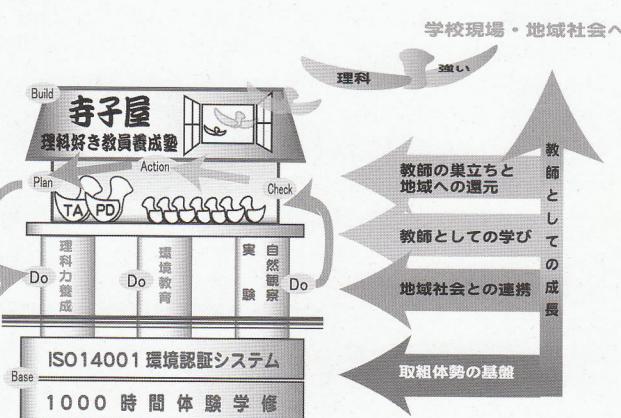


図1

つまり、学生についてほしい自然科学力として10の軸（知識力、情報収集力、企画指導力、表現力、実験力、観察力、生活科学理解力、環境教育力、授業実践力、及び教科理解力）を設定し、3つの分野で学生の育成を目指しています。3つの分野とは、理科第1分野（物理・化学）に相当する「物質とエネルギー分野」、理科第2分野（生物・地学）に相当する「生命と地球・宇宙分野」、そして家庭科分野に相当する「くらしの科学分野」です。また、それに合わせて学生が4年間でつみあげる環境寺子屋体験学修プログラムのイメージマップを示しています。学生は、それを参考にしつつ、各分野で体験を積むことにより6級から5段までの級位・段位を取得します。見事、どの分野も均等に段位を重ねた学生には修了を経て、師範（ネイチャー・マイスター）の学内資格を付与することとしています。

新たに「就職支援室」を開設しました

後

援会員の皆様には、平素から島根大学教育学部の教育活動や就職対策に多大のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、教育学部では、平成20年3月に終了した耐震改修工事を機に、教育学部独自の施設として「就職支援室（70m²）」を開設しました。就職支援室は、当初5名の学部就職担当教員でスタートしましたが、平成20年12月に本学部・社会福祉コースの卒業生である木下千絵さんが事務スタッフとして加わり、教育学部生の就職を支援する場として、とりわけ教員を目指す学生のために、以下のような事業を展開しています。

1. 各都道府県の教員採用試験に関する情報提供、島根、鳥取などの教育委員会による教員採用試験説明会の開催、都市部の教育委員会が実施する教員採用試験における大学推薦の情報提供と支援の実施（昨年度は、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、京都府、京都市が大学推薦制度を導入しました）。
2. 各都道府県や市町村による常勤・非常勤講師の募集情報の提供。
3. 教員採用に関する図書や雑誌、参考書、教員採用試験問題集、情報検索用パソコンなどの整備・充実。
4. 合格者体験報告会、就職面談会、ようこそ先輩、採用試験のための勉強会などの開催。
5. 就職相談体制の整備・充実。

以上が、私たち理系の教員が中心となり提案し具現化した「夢」があり、「社会に求められている（理科ぎらいの解消）」教科に特化した教育プログラムです。

私たち大学教員は、学生や社会からの期待に応えられるように、着実に成果をあげていく覚悟でおります。特に、今回のGPは教科に特化したプログラムであります。教科レベルでの教育内容の改善や新たな取り組みにおいてもGPとして採択されるという結果を示せた事は、「新たな挑戦」として今後の他教科への活路を与えたことになります。

これを一つの機に、ますます島根大学教育学部が発展することに力を注いで行く覚悟でありますので、後援会の皆様方におかれましては、一層のご理解とご協力を願い出来ましたら幸いです。

副学部長（就職担当）伊藤 豊彦

今回、教育学部が開設した就職支援室が、教員を目指す学生の皆さんに対する就職支援のシンボル的存在として、学生の皆さん気が軽にしかも積極的に利用してくれる事を期待しています。

新聞報道等によりますと、厳しい採用状況が続いている島根・鳥取両県でも、徐々に回復する見込みにあるようです。私ども教員も新設された就職支援室を有効活用しながら、今後ともきめ細やかな就職支援に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、就職支援室の図書・資料等の整備に際しては、後援会から多額のご援助をいただきました。紙面をお借りしてお礼を申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



卒業生の声

新たなスタートに向けて

初等教育開発専攻 伊東 孝之

私は、島根県の教員採用試験に合格し、今年の4月から小学校の教員として働くことになりました。無事に合格できたのも、教師になるために、大学4年間の中で様々な経験を重ねてきたからだと思います。子どもと一緒にキャンプや県内を旅することなどの社会体験活動、小学生への学習支援、児童クラブなど、子どもとかかわる活動をたくさんしてきました。このような体験では、子どもがその時々に考えていることや求めていることを感じ取り、支援することの大切さ、子どものよいところや頑張りを認める上で、子どもの自信や自主性が育つことなどを学びました。また、筆記試験や面接に向けての勉強も、熱心な先生や先輩、一緒に頑張る仲間のおかげで乗り越えることができました。4年間、本当にたくさんの人に支えられ、育てていただきました。

今後、教師として、子どもをしっかりと認め、一人一人が自信と役立ち感を持ち、また、お互いのことを認め合える学級をつくっていきたいと思います。これから始まる教員生活、今、新たなスタートラインに立っています。学校現場は厳しいかもしれません、どんなときでも大学4年間で学んだことを思い出しながら、子どもと向き合い続けたいと思っています。



育ててもらったように育てていきたい

初等教育開発専攻 本藤阿沙子

「大きくなったら幼稚園の先生になりたい」と言っていた言葉が現実になることに、今は嬉しさも不安も感じています。

大学生活4年間の中で、教育実習やボランティアを通じ本当にたくさんの子どもたち、そして先生方、その他多くの人たちと出会ってきました。最初は方言の違いなども強く感じていましたが、今では採用試験の模擬保育やロールプレイングで「○○するけんねー」と、島根の言葉を使うほどに馴染んでいました。

ボランティアでお世話になっていた幼稚園で、ある素敵な先生に、「人それぞれ色々な保育のやり方があって、そこから影響を受けたり学ぶこともいっぱいあるけど、最終的にはその先生の人柄とか育ってきたものは変わらんし、それが自分の保育に1番影響するけんね。本藤先生は、きっと親御さんに大事に育てられたんだと思うけん、大丈夫」というお言葉をいただきました。この言葉を聞いて、こんな素敵なお言葉をくださった先生に感激しました。また、しっかりと育ってくれた両親に感謝しなければならないと思いました。私の人間性がこれから出会う子どもたちに少しでもプラスになるよう、自分を大事にしていかなければならぬと思いました。もちろん、不安もたくさんあり、これから苦しいことも辛いこともあるけれど、自分にも周りにも優しい人間になれるよう、楽しんで社会に出ていくことを思います。



推薦で京都府教員に採用

数理基礎教育専攻 中山 裕貴

私は特別何か努力したというわけではありません。数名が合格した中にまたま私も入っていたというだけで、不安を抱えながらもがむしゃらに努力したというのはみな一緒です。ただ、私が他のみんなと少し違っていたのは教採に対する考え方だと思います。

私は1年でも早く確実に地元島根で教師として採用される方法を考えました。そこで思いついたのが、競争率の低い他県で採用され教師としての実践力をまず蓄え、現職の教員枠で島根県にふたたび戻って受験するという方法でした。

そして、大学推薦をしていただき、京都府を受験させていただきました。

そんな自分本位な考え方で受験した京都府ですが、実際に採用を頂いた今は、場所に関係なく純粋に、教師として子どもたちの前に立てるということが嬉しくてしょうがありません。京都府の教育に一生を捧げるつもりで、今も京都府の中学校の教科書を読んでは指導案にするなどの教材研究に取り組んでいます。見知らぬ地で不安もありますが、自身の仕事に責任を持ち、何より楽しんで教育に当たれるよう様々な知識や技術を吸収して、子どもたちの成長に携わっていきたいと思います。



大学生活を振り返って

言語教育専攻(国語) 亀川 由

私が在学中に努力したことを二つ挙げたいと思います。

一つ目は「漢字検定一級」の取得です。勉強を始めた当初は見たことのない字が沢山あって模擬テストの点もさんざんなものでした。しかし、漢字の字義や、成り立ちの歴史について時間をかけて調べていくことで様々な知識を得ることができ、点数も上げていくことができました。「楽しみながら理解する」という学びの本質を漢字検定に教えてもらったような気がしています。

二つ目は「子供と関わる時間を多く持つ」ということです。特に自立支援施設では様々な年齢、個性を持った子供たちに会うことができました。刺青をしたり、傷害事件を起こしたりといった近寄り難いような子供でも、実際に話をすると彼らは自分の気持ちをストレートに私に伝えてくれました。先入観を持って接するのではなく、常に子供と同じ目線に立って物事を考えるということの大切さに気付くことができました。

教師になってからもこの気持ちはずっと持ち続け、常に新しいことに挑戦していきたいと思っています。



後援会は、みんなの会費で運営されています お子様の大学生活を支援する後援会には是非御加入下さい

☆会費の納入は、入学手続きの際に配布した封筒に同封されている「銀行振り込み用紙」をご利用下さい。

☆会費納入口座は、「山陰合同銀行島大前支店(普)2702605 島根大学教育学部後援会」です。

☆お問い合わせは、後援会事務局(TEL.0852-32-6252 教育学部総務係)までお願いいたします。

(メールでのお問い合わせは、koho@edu.shimane-u.ac.jpまで)

教育学部ホームページのURLは <http://www.edu.shimane-u.ac.jp>

学内資格認定制度について

平成16年度の学部改組以来、1000時間体験学修は教育学部独自のカリキュラムとして定着してまいりました。しかしながら、これまでの体験活動はただ単に時間数のみで評価されており、質的な面からの評価が十分ではありませんでした。

そこで、これらの活動を質の面から評価し、優れた活動を目にするようにするために、「学内資格認定制度」を創設いたしました。この「学内資格認定制度」は学部における全専攻・コースにおいて創設しており、学部が提供する体験活動メニューの質の向上や学生にとって体験学習に対し高い目標を持たせる効果が期待できます。また、地域社会との協同で作られる資格ですので、地域社会に対する大学教育の責任と意義が学生を通して明らかにされるという成果も期待できます。

以下、美術教育専攻と英語教育コースにおける「学内資格認定制度」及び各専攻・コースにおける「資格名称」を紹介いたします。

【美術教育専攻】：美術館ボランティア活動マイスター

島根県立美術館において実施される美術館ワークショップの企画・運営・実施を経験した学生に対し、美術館職員及び美術教育教員による審議を経て認定されます。認定された学生は、美術館からのボランティア派遣要請に対応することができ、ボランティア・スタッフの主導的な役割を担うことができます。

【英語教育コース】：英語学習指導リーダー

ビビットひろばや高等学校における土曜日学習会の企画・運営・実施が主な活動であり、認定基準は上記の活動において良好な評価を得ており、さらに英検準1級以上またはTOEIC700点以上を取得していることなどです。資格取得学生はそれぞれの活動のリーダーとして、企画・運営・実施の中心的役割を担うことができます。



【初等教育開発専攻】：初等教育優秀学生賞

【心理・臨床専攻】：保健室メンタルソポーター、子育てソポーター

【特別支援教育専攻】：特別支援地域ソポーター

【国語教育コース】：国語学習指導学生リーダー

【共生社会教育専攻】：フィールドワークコーディネーター

【自然環境教育専攻】：サイエンスマイスター

【技術教育コース】：子ども木育ソポーター

【家政教育コース】：子ども食育ソポーター

【幼児教育コース】：幼児教育優秀学生賞

【健康・スポーツ教育専攻】：子どもスポーツ活動コーディネーター

【音楽教育専攻】：音楽教育特別活動賞

【教育支援センター】：体験学修ピア・ソポーター、学校教育ソポーター、コミュニティーサービス・ソポーター

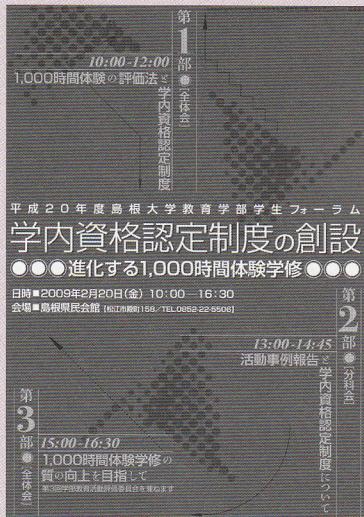
【教師教育研究センター】：宇宙教育実践資格

学生フォーラム開催について

島根大学教育学部において卒業要件となっている「1000時間体験学修」。その中でも基礎体験に含まれる「専攻別体験学修」では、学生の専門性を活かした体験活動を行えるよう専攻ごとに様々な体験活動が提供されています。平成19年度の学生フォーラムでは、これら全専攻・コースで実施している「専攻別体験学修」の取り組みや体験活動を通して得られた学びの成果発表を行いました。

今年度教育学部では、昨年度の学生フォーラムにおいて発表した「専攻別体験学修」を基にした「学内資格認定制度」を創設しました。これは学生の体験学修への系統的な取組を推進し高い目標を持たせる効果があると同時に、活動を時間数のみではなく質の面から評価できるものです。

そこで今回の学生フォーラムでは、「学内資格認定制度」への理解を深めるために、8つの取り組みについて学生と教員が協同で発表します。なお、このフォーラムは学生実行委員が中心となって実施されるものであります。



日 時 平成21年2月20日金 10:00～16:30 会場 島根県民会館

テーマ 学内資格認定制度の創設～進化する1000時間体験学修～

プログラム 第1部：全体会

1000時間体験の評価法と学内資格認定制度

第2部：分科会

活動事例報告と学内資格認定制度について

第1分科会（初等教育開発・美術教育）

第2分科会（音楽教育・教育支援センター①）

第3分科会（特別支援教育・英語教育）

第4分科会（教育支援センター②・健康スポーツ教育）

第3部：全体会

第3回学部教育活動評価委員会

（教育学部教員対象FD研修会）

*このフォーラムは、文部科学省平成19年度採択「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」関連事業の一環として実施するものです。

教師力パワーアップセミナー開催について

教育学部学生の更なる「教師力」の向上を目指して、2～3回生を対象に「教師力パワーアップセミナーを行います。

このセミナーでは「先輩方（4回生、学部卒業の新任教員）」、「学部教育活動評価委員」と「サポートマイスター」ととの交流を通じて、学生それぞれの中に確かな『自己評価視点』を醸成することを目的としています。「学部教育活動評価委員」は夏に実施している面接道場の面接委員をお願いしている方であり、「サポートマイスター」は1000時間体験学修の受け入れ機関を代表する方々です。このセミナーは、学生に対してこのような地域社会の人的資源からの強力な刺激を加え、集中的な研修プログラムの中で「教師力」を格段に向上させることをねらいとしています。

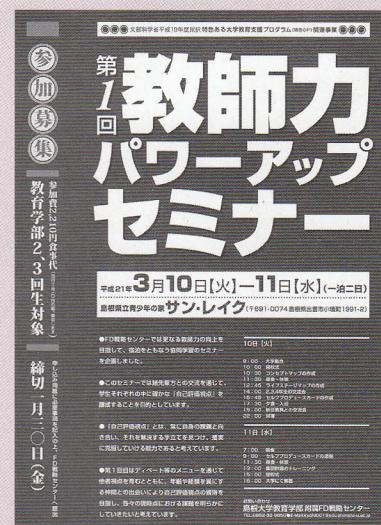
『自己評価視点』とは、常に自身の課題と向き合い、それを解決する手立てを見つけて、着実に克服していく能力であると考えています。

第1回目は宿泊をともなうセミナーとして、ディベート等のメニューを通じて他者視点を育むとともに、年齢や経験を異にする仲間との出会いにより自己評価視点の獲得を目指し、各々の現時点における課題を明らかにしていきたいと考えています。

第1回目 平成21年3月10日㈭～11日㈮

島根県立青少年の家サンレイクにおいて実施

第2回目～第6回目 3月～5月にかけて学部内において実施



平成20年度 教育学部後援会幹事名簿 (19名/順不同)

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
安来市	宮本徹也	院2	宮本敬子	監事
松江市	飯塚節子	学校教育4	飯塚洋平	
米子市	内田義巳	学校教育4	内田ひとみ	
雲南市	西山成信	学校教育4	西山圭信	
簸川郡	曾田悟	学校教育4	曾田茉莉香	会長
松江市	小村陽悦	学校教育4	小村さやか	
浜田市	驛田省吾	学校教育4	驛田久子	
安来市	大西啓治	学校教育3	大西美貴	会計幹事
飯石郡	福島浩	学校教育3	福島彩	副会長
東出雲町	福間真澄	学校教育3	福間春奈	
出雲市	稻田隆嗣	学校教育2	稻田隆志	
米子市	河田健志	学校教育2	河田紗絵香	
隠岐郡	木村一則	学校教育2	木村佳則	
出雲市	角美幸	学校教育2	角真理子	副会長
松江市	長谷川芳人	学校教育2	長谷川圭	監事
境港市	安達義昭	学校教育1	安達宏樹	
米子市	梅川郁子	学校教育1	梅川裕衣	
松江市	古川康徳	学校教育1	古川花乃	
出雲市	持田剛	学校教育1	持田諒子	

後援会による教育学部支援事業

平成19年度に実施した主な事業はつぎのとおりです。

- 1 学生の課外活動支援 (約60万円)
部活動、大学祭等の資金援助のほか中四国大学学生交流経費の一部を補助しました。
- 2 教育実習支援 (約100万円)
副免取得希望の学生の教育実習経費に補助をしました。
- 3 國際交流支援 (約40万円)
韓国、中国の交流大学への学生派遣、教員派遣経費の一部を補助しました。
- 4 広報事業 (約40万円)
「機関誌」を発行し、教育学部の教育・研究活動や学生の皆さんのお活動をお知らせすることにしました。
- 5 教育環境整備支援 (約15万円)
学部の教育環境の改善を図る経費を補助しました。
- 6 就職支援 (約60万円)
就職情報の収集、就職先の開拓等学生の就職活動を支援する活動に補助しました。

発行：島根大学教育学部後援会

発行日：平成21年3月21日

発行所：島根大学教育学部内
教育学部後援会事務局

所在地：〒690-8504
松江市西川津町1060
TEL. 0852-32-6251
FAX. 0852-32-6259

印刷：株谷口印刷

おまかせ下さい!!

企画・デザイン・撮影から、印刷に関わるetc.
また、ホームページ、CD-ROMのご相談もお気軽に。

株式会社谷口印刷

TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 島根県松江市東長江町902-59(朝日ヒルズ工業団地)
TEL(0852) 36-5888(代) FAX(0852) 36-5889
E-mail:admin@tprint.co.jp http://www.tprint.co.jp